

目標設定

滋賀大学経済学部 近藤 豊将

学部の中長期ビジョンについて議論するための委員会に入っている。その関係でやや大人数の会議に出席することもあるのだが、なかなか意見がまとまらない。「選択と集中が大切である」、「グローバル・スペシャリストの育成を目指す」といった理念的な話では異論は出にくいのであるが、「だから何をどうすべきか」というところまでは、なかなか議論を落とせないのだ。

目標が明確であれば、^{おの}自ずと最適戦略は決まるだろう。換言すると（^{たいぐう}対偶をとると）、最適戦略を決められない、または、何を選択しそれに集中すべきか優先順位を付けることができないとすれば、目標設定の仕方に問題があるのかもしれない。

異なるタイム・スパンごとに、少なくとも三種の目標を設定した方がよい。まずは、長期目標である。これはむしろ達成不可能な理念的な目標がよいだろう。達成してしまうとやることになくなってしまふからだ。我々大学人の場合でいうと、「質の高い研究と教育を提供していく」といった具合である。ビジネス・パーソンの場合なら、「ビジネスを通じて社会に貢献する。その中で自己を磨き、人間性を高める」といったところか。

続いて中期目標である。これについては、やや具体的な内容がよい。抽象的な話に終始していたのでは、具体的な課題が見えてこないからである。長期目標に直結するように設定すべきである。両者がちぐはぐでは、なんのための長期目標かわからないからだ。五〜十年程度である程度は形になり、その成果を検証できる方がよい。アウトプットに対して何の検証も行われないなら、サボった方が得になってしまふからだ。例としては、「自分の研究分野で未解決問題を見出し、解決への^{ほうと}方途を探る」、「学ぶ楽しみを実感しつつ、健全なビジネス・マインドを育成する授業を行う」、「有力な資格を取得し、キャリア・アップを図る」など。

具体性を帯びた中期目標を上手く設定できれば、それに効果的に接続するように短期目標を設定することも容易だろう。「今月中に、執筆中の論文の初稿を仕上げる」、「来週の講義に向けて補助資料を収集する」、「今日は、資格試験のための問題集を10ページ分マスターする」といった具合である。

ここまで課題を具体化できれば、今やるべきことが明確だから、集中して取り組むことができる。短期目標の成果を着実に中長期目標につなげていくための計画がしっかりしており、努力が無駄に終わるリスクを回避できているから、安心して目の前の課題に没頭できる。短期的課題を消化していくことで自分の長期目標へ近づいているという実感を持つことができるから、退屈な問題解きにさえモチベーションを付与しやすい。

日本は、第二次大戦の敗戦の中から経済成長という目標を定め、それに向けてモーレッツに邁進まいしんした。先進国の仲間入りを果たした。大学生たちは、「受験」という（親や社会から与えられた）目標に対しては「合格」という成果を出すことができた。与えられた目標に対して結果を出すことについては、我々は能力を発揮できるのである。

しかしながら、今後はそれだけでは不十分である。他人や社会から目標を与えられないと身動きが取れないようでは一人前の大人とは言えないだろう。組織や社会についても、目標設定の段階から主体的に行うことが、永く繁栄していくためには必要だろう。

経済的に豊かになった日本（人）は、目標を見失っていたようだ。確かなビジョンを持って主体的に目標を設定していかうという、自主独立の精神も欠いていた。そのような中、不幸にして、我々は、東日本大震災（平成二十三年三月十一日（金））により、第二の敗戦といえるほどの深手を負うことになってしまった。現時点では、被災者の方々の救済、ケア、そして一日も早い復興が、社会の共通目標となっている。近い将来、この目標が概ね達せられたとき、再び目標を見失う事態は避けたいものである。

（平成二十三年四月十七日）

※このたびの震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。被害に遭われた方々、そのご家族の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。